

立命館生協 ベジチェックハイストライカー

第396号



[組合員交流]

取り組み概要

日時：6/25(木)・7/9(木)

どちらも13：10～14：10

場所：立命館大学びわこくさつキャンパス
リンクカフェテリア前

参加者数：25日→25人、9日→15人
(うち両日参加者12人)

背景や概要：参加者にベジチェックの記録表と健康レシピカードを配布し、2週間後に再測定を実施した。数値の変化に応じて異なる金額の小鉢券を配布し、組合員に野菜摂取への意識向上と食堂での小鉢選択を促した。

POINT.1

「これまで実施していなかった」新企画の実施



この取り組みは、びわこ・くさつキャンパスの学生委員会として初めて実施したものです。以前から「共済を組合員に拡げる取り組みを形にしたい」という想いがあり、食に関心のある組合員が多いというキャンパスの特徴を活かして、職員と連携しながら実現しました。

また、実施前に食堂のレシートを調査したところ、小鉢を選択する組合員が約半数であることが分かりました。そこで、小鉢を選択する組合員を増やし、日頃の食事に野菜を取り入れる意識を高めてもらう／食生活を見直してもらうことを目的に取り組みを実施しました。事前に組合員の利用状況を把握し、その実態に合わせて目的や内容を設定した点も、この取り組みの特徴です。

POINT.2

「初企画」だからこそ見えた課題と伸びしろ

初めての取り組みだからこそ、主に集客の観点からこれからの活動にも活かせる課題を見つけることができました。多くの組合員が「ベジチェック」について知らないことから、数値化されることを魅力的に感じたり、興味をもったりする組合員が少ないのが現状です。より多くの組合員に興味を持ってもらえるように、参加者を増やすための集客方法や、取り組みの魅力をより分かりやすく伝える方法については、さらに伸びしろがあることに気づくことができました！



POINT.3

「学生委員会を知ってもらう」ための新たなヒント



一方で、今回のような「リピート型」の取り組みには、新たな可能性も見いだすことができました。複数回にわたって実施することで、組合員と継続的に関わることができ、企画を「その場限り」で終わらせず、その後の行動や意識の変化につなげることができます。さらに、同じ場所・時間に継続して取り組みを実施することで、学生委員会の存在をより多くの組合員に知ってもらうきっかけにもなります。今回の取り組みを通して、課題だけでなく、今後の活動につながる新たな可能性を発見することができました！

「初めて」から生まれた挑戦と新たな可能性

